

第 6 表 機械移植栽培面積の中で中苗が占める割合（％）

北海道	66.1	埼玉	49.7	福井	20.5	鳥取	18.0	佐賀	7.2
青森	93.0	千葉	2.0	岐阜	39.1	島根	5.0	長崎	6.1
岩手	36.6	東京	77.3	愛知	18.8	岡山	40.1	熊本	37.8
宮城	38.7	神奈川	6.4	三重	12.1	広島	18.0	大分	6.0
秋田	56.5	山梨	40.0	滋賀	35.7	山口	3.9	宮崎	5.7
山形	40.4	長野	64.5	京都	49.4	徳島	21.2	鹿児島	2.0
福島	36.0	静岡	0.6	大阪	3.6	香川	19.0		
茨城	14.4	新潟	32.8	兵庫	25.1	愛媛	16.0		
栃木	10.6	富山	2.7	奈良	58.6	高知	10.0		
群馬	78.8	石川	18.6	和歌山	15.7	福岡	11.8		

昭和52年度落葉果樹関係除草剤・ 生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会技術部

昭和52年度落葉果樹関係委託試験成績検討会
は、昭和53年1月31日（火）、茨城県牛久「植
調研究所」において試験場関係者および委託関
係者約90名参集のもとに開催された。

除草剤3薬剤合計17点、生育調節剤20薬剤合計
90点について、各試験場担当者の報告、その質
疑応答ならびに慎重な検討がなされた。

その判定結果は、次のとおりである。

当検討会では、昭和51年度秋冬処理を含めて、

昭和52年度 落葉果樹関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定表

A 除 草 剤

薬 剤 名 ● 種 類 ○ 商 品 名	作 物 名	剤 型	有効成分および 含 有 率	委 託 者	担 当 場 所	試験の種類(ねらい) ；処理方法；処理 時期；散布量(／a)	新 継 の 別 今回 判定	判 定 理 由 または 内 容
1. OK-622 ● パラコート ○ パラゼット	ブドウ	液	1,1'-ジメチル -4,4'-ビピリ ジウムジクロリ ド 24%	大塚化学 薬 品	(1) 山形園試砂 丘分場、長野中 信地方試、山梨 果試、大阪農技 センター。 (2) 山形園試砂 丘分場、山梨果 試。	(1)適用性試験（樹 園地下草全般、グ ラモキソンと比較 で効果・葉害の検 討）；（全面）雑草 茎葉処理；雑草生 育期；20, 30ml （水量15l/a）〔グ ラモキソンに準ず る〕、(2)薬害試験 ；土壌処理；①(2 倍量)春・夏2回	新 実・継	実：雑草生育期 （草丈30cm以 下）、春200 ～300ml、夏 300ml、全面 雑草茎葉処理。 継：(1)低濃度 における効果の 確認。 (2)薬害の検 討。

薬 剤 名 ● 種 類 ○ 商 品 名	作 物 名	剤 型	有効成分および 含 有 率	委託者名	担 当 場 所	試験の種類(ねらい) ; 処理方法; 処理 時期; 散布薬量(㍖)	新継 の別	判 定 理 由 ま た は 内 容
							今回 判定	
1. OK-622 (つづき)						連用 ②(5倍量) 春～夏1回; ① 60ml ②150 ml.		
2. OK-622 ●ノバコート ○ノバゼット	ナ シ	液	同 上	同 上	(1)茨城園試, 神 奈川園試, 長野 南信地方試, 新 潟園試, 鳥取果 試. (2)長野南信地 方試, 鳥取果試.	同 上	新 実・継	同 上

B 生育調節剤

1. BA ●ベンジル アデニン ○ビーエー 液剤	ブドウ 〔巨峰〕	液	N ⁶ -ベンジルア ミノプリン 3%	クミアイ 化学工業	茨城園試, 栃木 農試, 山梨果試, 愛知農総試園研 福岡園試.	適用性試験(花振 い防止効果, 若木 および強樹勢樹を 対象に無核果の花 振り防止, 着粒増 加効果の検討); 果 房浸漬処理; 満開 後3～5日/①県 によって事情が異 なるので, 無核・ 有核あるいはその 混合のいずれを目 標にするか明らか にする. ②無核果 が着粒する傾向は あるが, 無核を希 望する場合は, 後 処理でGA25ppm の使用を考える; 100, 150, 200 ppm.	継 [S. 47] [S. 48] 継?	(大部分の県が 有核果をねら ったが) 有核果が顕著に ふえない.
2. BA ●ベンジル アデニン ○ビーエー 液剤	ブドウ 〔マスカ ット ベリー A〕	液	N ⁶ -ジンジル アミノプリン 3%	クミアイ 化学工業	兵庫農総センタ ー, 岡山農試, 広島農試, 福岡 園試.	適用性試験(花振 い防止効果, なる べく樹勢の強い木 または枝で実施す る); 果(花)房浸 漬処理; 満開予定 日の約10～15日前 GA100ppmと併 用する(GA液に 混合使用), 後処 理は全区GA100 ppm単用浸漬処理,	継 実・継	実: 〔簡易被覆 栽培〕 満開11～13日 前(葉数11枚 頃)第1回GA A処理時100 ppm混用果房 浸漬処理. 継: (1)〔露地〕 ①年次変 動, ②樹 勢との関

薬 剤 名 ・ 種 類 ・ 商 品 名	作 物 名	剤 型	有 効 成 分 お よ び 含 有 率	委 託 者 名	担 当 場 所	試験の種類(ねらい) ; 処理方法; 処理 時期; 散布葉量(/a)	新 継 の 別 — 今 回 判 定	判 定 理 由 ま た は 内 容
						対照はGA(単用) とする; 100, 150, 200ppm.		係, (2)〔施設栽 培〕 適用性(実 用性)の 検討.
3. B-995 ・ アミノサ イ ド ○ ビーナイ ン水和剤 80%	同 上 〔デラウ エア〕	水溶	N- (ジメチル アミノ) - スク シンアミド酸 80%	日本曹達	山形園試, 茨城 園試, 長野中信 地方試.	適用性試験 (遅伸 び〔ねむり病〕防 止); 立木葉面散布 ; 二次伸長初期; 500, 1,000 倍.	継 実・継	実: 7月下旬~ 8月上旬, 500 ~ 1000 倍液, 全面 (先端を 重点的に) 1 回散布. 継: (1)凍害に対 する効果 の確認, (2)果実形質 への影響, (3)ボルドー との関係 (葉害).
4. CCO ・ Chlor- mequan- at ○ サイコセル	同 上 〔マスカ ット〕	液	(2-クロロエ チル) - トリメ チル-アンモニ ウムクロライド 46%	三 共, 日本サイ アナミッ ド	岡山農試, 岡山 大学.	適用性試験 (ハウ ス栽培, 収穫後の 枝管理と翌年の花 芽分化着生促進); (立木葉面) 散布; 収穫後夏期副梢伸 長期; 250, 500 ppm.	新 継	〔試験年次, 例 数不足〕 (1)花芽着生への 効果およびそ の後の果実(形 質)への影響, (2)総合的な経済 性.
5. CaCO ₃ ・ 炭酸カル シウム剤 ○ クレフノン	同 上	水和	炭酸カルシウム 95% 湿展剤等 5%	白石カル シウム	果試安芸津支場, 山形園試, 岡山 農試, 福岡園試.	基礎試験 (生理的 物理的, 効果の探 索; 葉の保護と果 実の品質向上); 立 木全面茎葉散布; 50 ~ 100 倍.	新 継?	効果 (が不明確 なのでその 確認).
6. GA・BA ・ ジベレリ ン・ベン ジルアデ ニン ○ _____	同 上 〔アーリ スチュ ーベン〕	〔略〕	ジベレリンA ₃ { 顆粒 3.1% 錠 2.78% ベンジルアデニ ン液 3%	日本ジベ レリン研 究会 〔クミア イ化学 工業〕	青森畑作園試, 岩手園試大迫試 験地, 山梨果試, 石川砂丘地農試, 三重伊賀農業セ ンター.	適用性試験 (花蕾 および果房の2回 浸漬処理による無 核化熟期促進); 花・果房浸漬処理 (但しBAは第1 回目(前)処理の 時GA液に加用/ 第1回目GA単独 処理区を設ける. 4月21日追加).	継 継	(1)年次変動. (2)樹勢変動. (3)予測手段の確 立(処理時期).

薬 剤 名 ● 種 類 ○ 商 品 名	作 物 名	剤 型	有 効 成 分 お よ び 含 有 率	委 託 者 名	担 当 場 所	試験の種類(ねらい) ; 処理方法; 処理 時期; 散布薬量(μg)	新 継 の 別 今回 判定	判 定 理 由 ま た は 内 容
6. GA・BA (つづき)						第1回目(前)処理; 満開前18,16,14,12日, 第2回目(後)処理; 満開後10日; GA…100ppm, BA…150ppm.		
7. KWG-73 ● ジベレリン ○ _____	ブ ド ウ 〔デラウ エア〕	顆 粒	ジベレリンA ₃ 3.1% (Ga として 200mg 入り)	協和醗酵 工 業	山形園試, 神奈川園試, 長野中信地方試, 山梨果試, 大阪農技センター.	適用性(実用化)試験(ジベレリン製剤中に含まれる展着剤に改良を加えた新製剤で, 従来の製剤との間に薬効・薬害の点での差の有無の検討〔露地またはハウスでの従来剤との比較試験〕; 花房浸漬処理; 満開約14日前と満開約10日後の2回処理, 調査項目; 果房重・果房長・着粒数・無核率, 一粒重サビ等薬害の有無; 100ppm.	新 剤 型 変 更 実	従来のGA ₃ 処理に準ずる.
8. KWG-71・GA ● ジベレリン A ₄ , A ₃ ○ _____	同 上 〔巨峰〕	顆 粒	ジベレリンA ₄ 5.0% ジベレリンA ₃ 3.1%	同 上	栃木農試, 長野中信地方試, 山梨果試, 広島果試, 佐賀果試, 大分農技センター.	適用性(実用化)試験(無核化・着粒安定化をKWG-71処理で, 着粒後GA(ジベレリン協和)の処理で果粒を肥大させ, 有核果粒の肥大に近ずける. 第2回目処理の時期と濃度について検討); 花・果房浸漬処理; 処理前に房の切込みをし, 着粒後1房当り30~40粒となるように整形する. 第1回目処理時の新梢長を調査する;	継 (46.) 継	(1)年次変動, (2)処理時期, (3)樹勢との関係, (4)2回目の処理時期も検討.

薬 剤 名 ● 種 類 ○ 商 品 名	作 物 名	剤型	有 効 成 分 お よ び 含 有 率	委 託 者 名	担 当 場 所	試験の種類(ねらい) ; 処理方法; 処理 時期; 散布薬量(／a)	新継 の別	判 定 理 由 ま た は 内 容															
							今回 判定																
8. KWG－ 71・GA (つづき)						<table><tr><td></td><td>第1回 目 〔KWG －71〕</td><td>第2回 目 〔GA〕</td></tr><tr><td>①</td><td>500倍 (100 ppm)</td><td>25 ppm</td></tr><tr><td>②</td><td>同 上</td><td></td></tr><tr><td>③</td><td>無処理</td><td>無 処 理</td></tr></table>		第1回 目 〔KWG －71〕	第2回 目 〔GA〕	①	500倍 (100 ppm)	25 ppm	②	同 上		③	無処理	無 処 理					
	第1回 目 〔KWG －71〕	第2回 目 〔GA〕																					
①	500倍 (100 ppm)	25 ppm																					
②	同 上																						
③	無処理	無 処 理																					
9. PCPA・ GA ● PCPA・ ジベレリン ○ (トマト トーン・ ジベレリ ン)	同 上 〔巨峰〕	〔略〕	PCPA：4－ クロロフェノ キシ酢酸 0.15％ GA：ジベレリ ンA ₃ 0.31％	2,4－D 協 議 会	山形園試, 栃木 農試, 神奈川園 試, 長野中信地 方試, 山梨農試, 岡山農試, 大分 農技センター.	適用性試験（無核 果の形成, 体系処 理）; 花房浸漬また は散布処理; <table><tr><td></td><td>開花始 2～3 日前 〔P C P A〕</td><td>満開 10日 後 〔G A〕</td></tr><tr><td>①</td><td>75 倍 (約 25 ppm)</td><td>2 5 ppm</td></tr><tr><td>②</td><td>100 倍 (約 15 ppm)</td><td>2 5 ppm</td></tr><tr><td>③</td><td>150 倍 (約 10 ppm)</td><td>2 5 ppm</td></tr><tr><td>④</td><td>無処理 区</td><td></td></tr></table> (GA 処理10日後 頃房整形, 無処理 区との着粒を同程 度にする).		開花始 2～3 日前 〔P C P A〕	満開 10日 後 〔G A〕	①	75 倍 (約 25 ppm)	2 5 ppm	②	100 倍 (約 15 ppm)	2 5 ppm	③	150 倍 (約 10 ppm)	2 5 ppm	④	無処理 区		継 継	(1)年時変動（濃 度も含む）, (2)障害果〔縮果 病, 裂果〕の 解決, (3)2 回目の処理 時期, (4)樹勢との関係.
	開花始 2～3 日前 〔P C P A〕	満開 10日 後 〔G A〕																					
①	75 倍 (約 25 ppm)	2 5 ppm																					
②	100 倍 (約 15 ppm)	2 5 ppm																					
③	150 倍 (約 10 ppm)	2 5 ppm																					
④	無処理 区																						
10. TG－75 ● ジベレリン ○ _____	ブ ド ウ 〔デラウ エア〕	顆粒	2β, 4α, 7－ ヒドロキシ－1 β－メチル－8 －メチレンジブ －3－エン－1 α, 10β－ジカ ルボン酸1 α→ 4αのラクトン 5.0％	武田薬品 工 業	果試安芸津支場, 長野中信地方試, 大阪農技センタ ー.	基礎試験（ハウス または露地, 乾燥 状態（大気）に於 ける薬効の確認）; 花・果房浸漬処理 ; 第1回：満開予 定約14日前, 第2 回：満開約10日後 （出来るだけ乾燥 状態をつくり出し て実施する）:(75)・ 100ppm.	継 実	前年どおり.															
11. KP-1100 ● (摘蕾剤) ○ プルーン	ナ シ	乳	トデシルベンゼ ンスルホン酸カ ルシウム塩 2.5％	花王石鹼	栃木農試, 神奈 川園試, 鳥取果 試.	適用性試験（開花 前の花蕾を摘蕾, 特に有効処理時期 の検討）;（立木） 全面茎葉散布; 満	新 継？	被害がひどい.															

薬 剤 名 ● 種 類 ○ 商 品 名	作 物 名	剤 型	有 効 成 分 お よ び 含 有 率	委 託 者 名	担 当 場 所	試験の種類(ねらい) ; 処理方法; 処理 時期; 散布薬量(%)	新緑 の別	判 定 理 由 ま た は 内 容
							今回 判定	
11. KP-1100 (つづき)						開前(種々検討する) 50, 100, 200 倍.		
12. B-995 ● アミノサ イド ○ ビーナ イン水溶剤 80%	ナ シ 〔豊水, 新水, 幸水〕	水溶	N-(ジメチル アミノ)ースク シンアミド酸 80%	日本曹達	千葉農試(幸水), 神奈川園試〔豊 水〕, 鳥取果試 〔新水〕.	適用性試験(三水 の<新梢伸長抑制 による>花芽着生 増加; (立木全面) 茎葉散布; 満開20 ~30日後または2 次伸長初期, 12月 せん定時に調査; 400, 800 倍.	新 実・継	実:〔幸水一若 木の強樹勢樹 対象〕 満開70~80日 後(6月下旬 ~7月上旬), 1,000~2,000 ppm(800~ 400 倍), 全 面茎葉散布. 継:新水, 豊水 (若木)に ついて, 方法 を変えて効果 を確認する.
13. ACP-68 - 250 ● (エチレ ン剤) ○ エスレル 10	同 上 〔幸水, 新水等〕	液	2-クロロエチ ルホスホン酸 10%	2,4-D 協 議 会	福島園試, 埼玉 園試, 新潟園試, 愛知農総試園研, 鳥取果試.	適用性試験(従来 法に比較し, 早期 低濃度散布で, 果 実肥大・品質・日 持ち等についてよ り良質の成熟促進 果実を検討); 立木 茎葉(果実)全面 散布; ①果径30~35mm時 4,000倍(25 ppm), ②果径30~35mm時 3,000倍(33 ppm), ③満開100日以後 で果径60mm 以 上の時 2000 倍 (50ppm), ④無散布区 〔各区各々につ き, 適熟期と 思われる果色 で収穫し, 果 実調査する.〕	継 実・継	実:〔新水〕果 径30~35mm 時, 25 ppm立 木全面散布. <注>収穫期を 誤らないこと. 〔果色(カラー チャート)に より表面色3 前後時とする〕 継:他の品種に ついて(散布 時期).
14. KWG- 72 ● ジベレリン ○ _____	同 上 〔八雲, 新水, 長十郎 など〕	ペー スト	ジベレリンA ₄ 0.3%	協和醗酵 工 業	秋田果試 天王分 場, 茨城園試, 栃木農試, 埼玉 園試, 神奈川園	適用性(実用化) 試験(果実の肥大, 成熟促進効果と成 熟時の果実品質を	新 実・継	実:〔新水, 幸 水, 豊水, 長 十郎, 八雲〕 満開40日後

薬 剤 名 ● 種 類 ○ 商 品 名	作 物 名	剤 型	有 効 成 分 お よ び 含 有 率	委 託 者 名	担 当 場 所	試験の種類(ねらい) ; 処理方法; 処理 時期; 散布薬量(μ/a)	新 継	判 定 理 由 ま た は 内 容
							今 回 判 定	
14. KW G - 72 (つづき)					試, 長野南信地 方試, 鳥取果試, 広島果試, 佐賀 果試.	明らかにする); 果梗部塗布; 満開 40日頃(対照は無 処理) 収穫適期は 果色で判断し, 80 %適熟の時期とす る(表面色は, 果 試で供給); 30mg /1果(ペースト として).		(30mg/1果), 果梗部塗布, 継: (1)他の品種 について, (2)剤型, (3)塗布量, (4)日持ち, (5)収穫適期, (6)処理方法.
15. GR -60 ● _____ ○ _____	ナ シ 〔長十郎, 二十世紀, その他〕	水和	未 公 開	兼 商	埼玉園試, 千葉 農試(以上長十 郎他), 長野南 信地方試, 鳥取 果試(以上二十 世紀他).	基礎試験(落果防 止効果, 効果・葉 害・処理時期・濃 度); 立木葉面散布 ; 収穫始, その5, 10, 15, 20日前と 5日前, 20日前の 2回散布/比較 (対照)区はヒオモン 20ppm, 100ppm.	新 継?	落葉あり.
16. J -455 ● _____ ○ _____	同 上 〔二十 世紀〕	乳	5 -クロロイン ダゾール酢酸エ チルエステル 20%	日産化学 工 業	福島園試, 千葉 農試, 長野南信 地方試, 鳥取果 試.	適用性試験(落果 防止効果); (立木) 全面茎葉散布; 収 穫始め10~15日前 散布, 0, 50, 100 ppm/比較(対照) 区はNAA20ppm 同時処理.	新 継	試験年次不足. (処理時期と濃 度等).
17. A C P - 68 - 250 ● (エチレ ン剤) ○ エスレル 10	カ キ 〔平核無〕	液	2 -クロロエチ ルホスホン酸 10%	2,4 -D 協 議 会	山形園試砂丘分 場, 新潟離島農 技センター.	適用性試験(従来 法に比較し, 早期 低濃度散布で果実 肥大, 品質日持ち 等についてより良 質の成熟促進果実 を得る); 立木, 茎 葉果実, 全面散布; 満開70~80日後, 比較(対照)区は 着色開始期20ppm とする〔従来法〕, 各区共適熟期と思 われる果色で収穫. 脱洗, 品質調査す る. (脱洗はCO ₂ 法80~100%ガ ス濃度で行う; 0,	継 実・継	実: 満開70~80 日後, 20ppm 全面散布. <注>CO ₂ 脱 洗とする. (OTSD法に よるのが好 ましい) 継: 効果の確認, (年次変動) 葉害.

薬 剤 名 ● 種 類 ○ 商 品 名	作 物 名	剤 型	有 効 成 分 お よ び 含 有 率	委 託 者 名	担 当 場 所	試験の種類(わらい) ; 処理方法; 処理 時期; 散布量(ノ/a)	新 継 の 別 — 今 回 判 定	判 定 理 由 ま た は 内 容
17. ACP- 68-250 (つづき)						10, 20ppm.		
18. ACP- 68-250 ● (エチレ ン剤) ○ エスレル 10	カ キ 〔早生 甘柿〕	液	2-クロロエチ ルホスホン酸 10%	2,4-D 協 議 会	岐阜農試, 奈良 農試, 和歌山果 園試紀北分場, 鳥取果試河原試 験地, 福岡園試.	適用性試験(同上) ; 立木茎葉果実, 全面散布; 満開70 ~80日後, 比較(対 照)区は, 着色開 始期30ppm, 各区 各々につき適熟期 と思われる果色に て収穫し果実調査 ; 0, 20, 30ppm.	新 (適拡) — 継	(1)処理時期, (2)濃度, (3)圃場条件(日 照, 樹勢), (4)年次変動.
19. B-995 ● アミノサ イド ○ ビーナ イ ン水溶剤 80%	カ キ 〔富有 および 平核無〕	水溶	N-(ジメチル アミノ)ースク シンアミド酸 80%	日本曹達	〔平核無〕山形 園試砂丘分場, 新潟離島農技セ ンター, 和歌山 果園試紀北分場, 〔富有〕岐阜農 試, 奈良農試, 福岡園試.	適用性試験(熟期 促進効果); (立木 全面) 茎葉散布; 開花後70日; 500, 1000, 1500 倍.	新 実・継	実: 〔平核無〕 満開70日後 1000ppm (800倍)全面 茎葉散布. 継: その他の品 種, 特に富有 以外の品種に ついて, (濃 度, 時期等).
20. ACP- 68-250 ● (エチレ ン剤) ○ エスレル	モ モ 〔白鳳〕	液	2-クロロエチ ルホスホン酸 10%	2,4-D 協 議 会	山形園試, 長野 果試, 山梨果試, 愛知農試園研, 岡山農試.	適用性試験; 立木 茎葉果実全面散布 ; 満開50~55日後, 比較(対照)区は 満開70~80日後, 2000倍(50ppm). 〔従来法〕各区 とも, 適熟期と思 われる時収穫し, 果実調査する; 4000(25), 3000 (33)倍(ppm).	継 継	(1)年次変動, (2)落果その他の 障害について.

昭和 51 年度 除草剤 (秋~冬処理)

DBN ● DBN ○ カソロン	ブドウ	粒	2,6-ジクロル ベンゾニトル 6.7%	兼 商 北興化学 工 業	山形園試, 山梨 果試, 長野農 試中信地方試, 福岡園試.	適用性試験; 積雪 地帯では積雪前に 散布; 成木園ロー タリ耕の出来る場 合は, 前後に併せ て行う; 500, 600, 800g/a.	新 継?	葉害の心配あり.
------------------------	-----	---	----------------------------	--------------------	---	--	---------	----------